

えんだより



2月3日は節分です。

「鬼は外！福は内！」の掛け声と共に、子ども達は心の中に住みついている鬼（泣き虫鬼・弱虫鬼など）を退治して福を招き入れます。毎年お伝えしていますが、大人も心の中のいる色々な鬼を見つけて退治しましょう。

人間は誰でも生まれた時から生涯「天使と悪魔」が共存しています。他人の悪魔は見えたり感じたりすることがあっても、自分の悪魔は意識して発見しないと退治しにくいので一年に一度心の大掃除をお勧めします。心に鬼のなくなった人は表情も明るくなり、多くの方に信頼されて沢山の幸運が舞い込んで来る事でしょう。

2月29日（土）に「生活発表会」を行います。日頃の保育内容を少し充実させて保護者にご覧頂きますが、当日子ども達は環境の変化に負けて心が動揺するかも知れません。暖かい眼差しをご覧ください。



★給食室より

節分は皆が「健康で幸せに暮らせますように」という願いを込めて、悪い物を追い出す日です。

昔の日本では、春が一年の始まりとし、とても大切な日とされていました。その為、暦の上で春が始まる「立春」（2/4頃）の前日に節分が行われたそうです。

悪いもの（鬼）を追い払い、良いもの（福）を呼び込む豆まきをする理由は、「栄養豊富な大豆には、鬼を追い出すパワーが沢山詰まっている！」という事なのです。

“炒った大豆”を蒔くのは「火を通さずにそのまま蒔いてしまったら、芽が出てしまうかもしれない。悪いものを追い出す豆が育ってしまっは意味がない」という理由で“炒った大豆”を蒔くそうです。

炒り大豆は、自分の歳の数だけ食べると、体が丈夫になり病気になりにくいとそうなので、数えながら食べてみましょう。

節分の夜にその年の恵方（2020年は西南西）を向いて願い事をしながら一言も話さずに食べると、願い事が叶い、一年多幸で過ごせると言われています。



こどもとは⑤

「子どもの気持ちと言葉かけ」

縄跳びで8回飛べた子どもに「8回飛べたね」と言った時、今までは8回飛べなかった人は納得した嬉しい顔をしますが、いつも8回以上飛んでいる人は実力以下に思われたことでガッカリします。

大人の何気ない一言でやる気を起こしたり無くしたりするので、日頃の子どもの姿を読み取った言葉かけをしなければなりません。

「ママ！**」と声を掛けられた時の返事の仕方にも注意しましょう。

常に子どもと同じタイミングで話が出来れば良いのですが、無理な時には「静かにして！」「うるさい！」ではなく、「××が終わったら聞かせてね」と先の見通しを話すことも大切です。

話を聞いて貰えない子どもは、その人に対して“諦めてしまう子”になってしまいます。

★保健室より

寒さが厳しくなり、空気が乾燥しています。感染症の予防の為にも、手洗いや十分な睡眠、室温の調整や加湿、栄養バランスのよい食事で健康に過ごせるように心がけましょう。

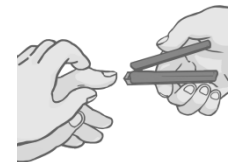
この時期は、暖房器具の使用・鍋料理など熱いものに触れる機会が多くなり、子どもの火傷が増えます。火傷をした場合、まず水で冷やします。広範囲に火傷をした場合には、迷わず病院に行きましょう。

水疱になってしまった時には、無理につぶさずに皮膚科受診をしましょう。

手足のつめのケアについて

手足のつめが伸びている事で考えられること

- ・つめが割れたり剥がれたりする
- ・お友達にあたり怪我の原因になってしまう
- ・掻き壊して皮膚を傷つけたり、とびひの原因になってしまう
- ・ばい菌や埃が溜まり感染の原因になる
- ・足のつめは、忘れがちなのでしっかり確認しましょう



上記のようなことを防ぐためにも、ご家庭で定期的に爪を切るようお願いいたします。尚、全園児を対象として金曜日に手足のつめの長さをチェックしています。つめが長かった人には、声をかけさせていただきますので、切ってくださいようお願いいたします。登園時に再度確認させていただき、長い場合には、その場で切ってもらってからの受け入れとなりますのでご協力お願いいたします。